

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.65

日時	2013年11月24日
行脚先	備前 福岡城
住所	岡山県瀬戸内市長船町福岡（備前国）
行事名	

特徴

築城年代は定かではありませんが、鎌倉時代末期に頼宮四郎左衛門によって築かれたと言われています。建武3年(1336年)、足利尊氏が九州へ退き、兵を募り、再び京へ攻め上った際、新田方の頼宮四郎はこれを阻もうとして城を失いました。その後は、足利方の佐々木氏、続いて赤松氏の所領となりました。嘉吉元年(1441年)、嘉吉の乱により赤松氏が没落すると山名教之が備前守護となり、守護代として小鴨大和守が福岡城に入りました。小鴨大和守は福岡城を大修築したと言われています。その後、応仁の乱で再興した赤松政則が文明元年(1469年)福岡城を攻略し、福岡千軒を城内に取り込んだ城へと修築しました。文明15年(1483年)赤松・浦上氏と松田氏の対立により、福岡城をめぐる両者の合戦が行われました(福岡合戦)。その後、大永年間(1521年～1528年)の大洪水により吉井川が流れを変えたため、福岡城は廃城となりました。

黒田官兵衛との関わり

備前福岡は『福岡千軒』と言われ、吉井川と山陽道が交差する交通の要衝で備前随一の商都でした。黒田官兵衛の曾祖父・高政、祖父・重隆は、当時吉井川沿いの商業都市として栄えていた備前福岡に移りました。ここで身を起こした黒田家は後に播磨に移り、小寺家に召し抱えられるようになりました。慶長5年(1600年)、関ヶ原の合戦の戦功で筑前52万石を賜った黒田官兵衛と息子・長政は、博多の地に新たな城を築きます。官兵衛は、新たな城を「福岡城」、その城下町を「福岡」と名付けました。黒田家再興の地として愛着があったのか、ここ『備前福岡』から名を取ったのではないかとされています。

記録

